

## ◇ 編集後記 ◇

◇ 本学のこの一年の研究活動を顧りみるとき、日本仏教学会、日本印度学仏教学界、日蓮宗教学研究大会等にも研究発表者を送り、その他人文科学関係の諸学界にも参加するなど一応の成果を得ては来ましたが、身延山教学の発展のためにも、より積極的に学界活動に参加して研鑽の実を挙げて欲しいと願うものであります。

◇ 資料「身延山諸堂記」（北沢光昭師校注）も本号で完結しますが、本資料は先に紹介を終った「身延山略譜」と併せることで、身延山史の基本資料が揃うことになり、斯学に裨益する所が大きいと自負しています。

◇ 本学の学長職に在った竹下日康猥下が御遷化され、久遠寺総務・学園学監職の岩間湛良（日勇）猥下が身延山第九十世の猥座と学長職に就かれ、学監並に久遠寺総務職に東京善性寺山主望月一靖師（宗務副総長）を招待し清新な風気が吹きこまれました。新法主・新総務両猥下には殊のほか身延山学園の充実と発展に意を用いられ、

学園図書館の建設を優先事業とするとの公約を賜わりましたことは、学園一同のよろこびとする所であります。我等教職員は、両猥下の御熱意に応えるべく、意欲ある研究活動を展開するよう努めて参ります。

◇ 仏教文化研究所の事業である「身延山史年表」を本年五月の大本堂入仏落慶大法要の慶讃当日、仏祖三宝の宝前に奉納できるはこびとなりました。諸先生方の御労苦を謝しつつ、この悦びを先生方と分かたく思います。

◇ 編集子（仏教文化研究所長）としてお詫びしたいこと、それは「学内研究会」の開催をおろそかにして、僅かに今村紀子先生の「生成変形文法の基本的な考え方」を一回開いたにとどまったことである。諸汎の事情が重なったとは云え怠慢の謗りは免れない。大いに反省しつつ次年度の充実を期したいと希い、諸先生方の絶大な御協力をお願いしつつ筆を置きます。

（編集子・町田）